

# よかご通信

2014年7月号

O2Farm【オーツーフーム】 大津耕太&愛梨  
〒869-1501 熊本県阿蘇郡南阿蘇村両井 587  
Tel&Fax : 0967-62-3730  
E-mail: [mail@o2farm.net](mailto:mail@o2farm.net)  
O2FarmWeb : [www.o2farm.net](http://www.o2farm.net)



梅雨明け間近！皆さまはいかがお過ごしでしょうか。台風8号は大きな騒ぎになりましたが、沖縄と九州の一部を除くと、警戒していたほどの被害がなかったようで良かったです。ここ、南阿蘇でも被害らしい被害はほとんどなく、農家一同、ホッとしています。収穫まであと2カ月弱。今後も台風が来ないことを祈るばかりです。さあ、今月のご報告です。

6月上旬に田んぼに放したアイガモたちは、約1カ月の間、せっせと除草に励んでくれました。今年は研修生クンシや居候ローマンが2重にネットを張り巡らせたり、カラス除けのテグスもしっかり張ってくれ、夜は小屋に入ってもらうようにしたので、野犬やキツネにやられることもなく、しっかりと除草効果がありました。コイの方もしかり。鷺（サギ）にやられないようになり密にテグスを張ったので、こちらも近年になく効果がありました。夫婦二人ではなかなか手が回らないことも多いのですが、助っ人がいてくれるというのはありがたいことです。



アイガモは例年、イネの穂を食べてしまわないように、出穂前には田んぼから引き揚げます。ところが今年は、大型台風の被害を警戒して、急遽田んぼから引き上げることに。風で支柱やネットが倒れたとしたら、アイガモたちが人様の田んぼに行ったり、外敵にやられたりするからです。これまでは、我が家のタンパク源として、引き上げた後も家の庭などで飼い続けたこともあったのですが、今年は庭にネットを張るなどの準備が全くできていない状況でドタバタと引き上げたので、カモたちを呼びよせて小屋に入ると、そのままアイガモを孵化させた農場まで送り届けることにしました。そんなわけで、突然アイガモたちの姿がなくなり、賑やかな声がしないのはちょっと寂しい気もするのですが、今夏もお客さんがたくさん来る予定のO2ファームは、アイガモたちに負けないほど賑やかになることでしょう。



さあ、コイやアイガモが頑張ってくれば私たちはヒマかと言えば、もちろんそんなことはありません。アイガモはイネ科の植物が嫌い。だからこそ安心して田んぼに放せるのですが、イネ科の雑草であるヒエは彼らにとって何の魅力もないのは当然のこと。このヒエ。米農家泣かせの代表格です。あまりにイネに似ているので、よっぽど注意して見ないと見逃してしまいます。ヒエの除草は、他の誰に頼むこともできない作業。昨年から研修生が来るようになってからと言うもの、どち



らか一人が研修生と仕事をするが増えたので、前ほど夫婦一緒に作業することがありません。取り逃しがないように、お互いにチェックしながら並んでヒエ取りするのは、楽（ラク）ではないですが、けっこう楽しい時間です。子供たちのこと、友達のこと、将来のこと等々。いろいろと積もる話をしながら、来る日も来る日もヒエを取りました。

ヒエが少ない田もありますが、田んぼにはどうしても高低差があり、高い部分にはアイガモやコイが行かないので、妙に草が多い場所ができてしまいます。そういう場所では、研修生や子供たちが活躍。特に筋金入りの「リトルファーマー」である三男は、幼稚園こそ辞めずに通っていますが、帰宅後おやつを食べたらすぐに出動。「僕もやる」と言って、“ガンツメ”とか“田押し車”と呼ばれる昔ながらの除草機をコロコロ押しながら田んぼを行ったり来たり。これ、キツイんですよ、ほんとに。泥のせいで重くなるし、ズブズブ埋まって歩きにくいし。それでも楽しそうにやってくれる三男には、思う存分、ご飯を食べさせてあげたいと思います。



さて出穂すれば、穂先から順に花が咲きます。稲にも花が咲くことをうっかり忘れてしまう位、地味な白い花です。でも受粉の時に荒天が続くと、せっかくここまで順調に育っていても実がつかえません。温室やビルの中だったらそんな心配はしなくてもいいのですが、日本の農村から田んぼがなくなったら、原風景が失われてしまいます。ちなみに、お米の値段が1kg600円だったらコメ農家が暮らしていけるという記事を読みました。日本人一人当たりの平均的なお米の消費量が1年間60キロと言われているので、600円/kgのお米だとしても、1年間で3万6千円。365日で割ったら、1日100円以下！おあしす米を買って下さっている皆さんにとっては釈迦に念仏ですが、日本の農家と農村の風景を支えるために、ごく一般的な消費者の皆さんにも、1日100円ならなんとか出してもらえないかなあ、と思った次第です。

ところで先日、母校の慶応大学湘南藤沢キャンパスに出向き、セミナーの講師を務めて来ました。慶応大学の学生さんを対象とした就職活動セミナーで、「農業と言う選択」というテーマ。同キャンパスを卒業して第一次産業に従事している3人が講師となり、どんな思いで農業を選んだのか、今後の夢をどのように描いているかなどをお話ししました。慶応大学のような大学を出る学生たちの選択肢に農業が入ってくるようになったら面白いですね。今回のセミナーは、農林水産省の就農支援課というところが主催して実現したもので、学生たちにとっても面白かったとは思いますが、登壇している私たち自身が楽しんでいたので、あっという間の1時間半でした。



梅雨を越えた後のお米には、どうしても虫がつきやすくなります。昔は当たり前にいたという「コクゾウムシ」は、黒くて思わずギョッとしてしまいますが、研ぐ時に水に浮いたところを流して頂くか、いったん袋から出して1日位広げて置いて頂くといなくなります。栽培中はもちろんのこと、保管中も一切農薬を使っておりませんので、ご理解いただきますようお願いいたします。梅雨が明けたら夏本番。皆さん、楽しい夏をお過ごしください。